

障害者支援施設 障害者福祉センター友愛寮

1 基本方針

思いやりと友愛の心を持ち、豊かで心のこもった利用者本位の質の高い福祉サービスを提供するため、職員一人ひとりが専門職としての資質向上に努め、安全かつ安心に、楽しく有意義に生活できるよう支援する。

地域とのつながりや共生を重視し、介護・支援を必要とする地域住民のニーズに応えられるよう、施設入所・通所・短期入所など各サービスの充実を図る。

2 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

（1）入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和5年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡					
					地域移行		家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)				
				GH	アパート等									
生活介護	50	54	7	7	0	0	0	2	2	3	12,557	93.0%	54	
施設入所支援	50	48	5	6	0	0	0	2	2	2	16,509	90.2%	47	
4年度	生活介護	50	54	2	2	0	0	0	1	1	0	12,734	94.6%	54
	施設入所支援	50	47	2	1	0	0	0	1	0	0	16,675	91.3%	48

（2）障害支援区分

①生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	3	6	17	28
女性	0	0	0	2	5	7	12	26
計	0	0	0	4	8	13	29	54

②施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	2	6	13	23
女性	0	0	0	2	5	6	11	24
計	0	0	0	4	7	12	24	47

3 事業の実施状況

（1）安定的な施設運営及び施設の環境整備状況について

ア 上半期に他施設への移管、入院・死亡等による退所が相次いであり、下半期にかけて入所利用者を持ち直したものの、目標稼働率を下回った。

なお、短期入所については特に積極的な受け入れを進め、目標稼働率には達しなかったものの、R4実績20.9%→R5実績40.1%と倍増につながった。

<稼働率実績（目標）>

生活介護 93.0%（目標:95.0%）、施設入所支援 90.2%（目標:92.0%）

短期入所 40.1%（目標:50.0%）

イ 緊急災害時に備え、避難訓練の実施、火災報知器等の点検、停電時の室内灯や非常用電源装置の使用法や保管場所の確認などを徹底するとともに、新型コロナ対応など、感染症対策物品の確保を進めた。

ウ 建替に係る検討については、新型コロナによる経営面への影響や建築資材の高騰等が依然として継続しており、ハード面での検討は流動的にならざるを得なかった。

まずは、地域移行を意識した利用者の入所調整を推進し、定数等のソフト面での課題の整理などを急ぐこととする。

(2) 利用者の満足度の高いサービス提供について

ア 各部署が協働し、日々の利用者、家族との関わりの中から必要なニーズ把握に努め、6か月に1回ケアカンファレンスにて利用者状況・課題等について話し合い、情報共有を図っている。

また、月評にて個別支援計画をもとにモニタリング等の状況をまとめ評価することで、個別支援計画の充実を図ることができた。

イ 知識や技術向上を目的とした研修については、感染症予防、排泄、ガウンテクニックなどの寮内で実施するとともに、外部での研修受講の内容を職員に周知共有するため、施設内の復命研修を実施し、介護技術の知識向上等に努めた。

ウ 保護者・利用者へ満足度アンケートを実施し、集計、検証を行い、要望や意見に対して改善に取り組み、サービス向上に努めた。

エ 施設入所者全員のみんなの会、意見箱の活用により苦情や意見を汲み取り、苦情解決委員会で検討し、第三者委員の助言もいただきながら、施設運営や支援の改善に努めた。

オ 施設内における虐待やハラスメントの防止などについては、虐待防止チェックシート実施や業務振り返りシートを活用し人権意識の啓発に努めた。

昨年3月に発生した虐待事案については、虐待防止研修の実施や報告体制の徹底など、職員一丸となって再発防止に向けた取組を行い、風通しのよい働きやすい職場づくりに向けて引き続き努めている。

カ 食事について、障がいの重度化、疾病により咀嚼、嚥下機能が低下した利用者に対しては、利用者個々に応じて刻み食やなめらか食等で工夫をこらし、かつ食器類や自助具を検討しながら対応している。

また、嗜好調査や利用者から直接食事に関する意見や要望を献立に反映させるとともに、毎月の行事食や全国の郷土料理、世界各国の料理など、食の時間を楽しんでいただけるよう工夫を凝らしている。

キ 利用者のアセスメントを随時実施し、心身機能の維持・向上が図れるよう生活リハビリの提供に努めるとともに、各部署と情報共有し、介護方法の検討を行った。

また、利用者及び職員双方の負担軽減につなげるために、リフトやスライディングボードなど活用の浸透を図った。

ク 昨年12月に発生した浴室での溺水事案について、事故の重大性を職員全員で共有した上で入浴マニュアルを見直し、浴室内で声かけや目配りの徹底など、二度と起こさないよう再発防止の徹底を図った。改めて利用者が安全安心な生活を送れるよう尽力する。

(3) 医療的ケアの充実について

ア 日々のケアの中で他部署との連携を図り、必要な情報伝達を詳細に行い、異変への早期発見、早期対応につなげている。また、職員全員に救命救急の研修を実施し、緊急事態の発生に備えた。

イ 有資格者による安心、安全な医療的ケアを実施するため、痰吸引や浣腸などの寮内研修を実施し、手技の確認や評価を実施することで、必要な技術の維持習得に努めた。

(4) 地域生活の継続と推進について

ア 通所及び短期入所利用者及びその家族が安心して生活できるようニーズ把握を適切に図るとともに、各利用者の相談員との連携を図り、支援区分を問わず積極的にサービス利用の受け入れに努めた。

イ 市民や近隣住民との協働・交流については、日中活動のボランティアなどの協力を受け入れているが、災害時での協力体制や相互交流など進めることはできていない。

(5) 日中活動の支援について

ア 日中活動として、書道やダンスの講師を招いて、多くの利用者に喜んで参加していただいている。

また、花見や節分、納涼祭やクリスマスなど季節の行事を大切にして利用者の生活の中の喜びにつながるように努めた。

イ 新型コロナの収束とともに、日中活動へのボランティア参加を進め、次第に交流が図れるように努めている。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取社会福祉専門学校	12月	2人	4人
介護等体験	11月	4人	20人
計		6人	24人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市赤十字奉仕団 (延7人)

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設4名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	15	587	6	306
日中一時支援事業	0	0	0	0